

ボランティア博覧会

「ボランティア博覧会（ボラ博）」は、「ボラセンまつり」と同様に今年度から始まった新しい取り組みの一つである。今年度ボランティアセンターが掲げた活動目標では、「ボランティア活動をしている、あるいははじめようとしているみなさんと、学内外のボランティア団体の出会いの場」と位置づけられている。白金・横浜両校舎で開催したこの「おまつり」は、キーワードをボランティアセンターの今年度のキーワードと同じく「つなぐ」とし、11月の後半の2週間をかけて、4つのプログラムを実施した。

第一は、「ボランティアファンド 学生チャレンジ賞中間報告会」である。「ボラセンまつり」では公開プレゼンテーションを行ったが、奨励金を7月に授与された後の活動について中間報告という形で実施をした。広く周知をはかるために両校舎で開催したが、ごく限られた学生しか参加しなかった。それでも、報告会では、報告する側と聴衆の間で活発なやり取りがあるなど、学生同士の意見交換が見られた。報告会への学生の参加増を次回開催時の課題としたい。

つぎに、「学生情報交換会」である。ボランティアセンター学生スタッフ、ボランティア系サークル、外部団体でボランティア活動をしている学生などが一堂に会して、ボランティアをテーマに話をしてみようという企画である。日頃ボランティア活動をしていても活動を発表する機会がない、自分達のことをもっと色々な人に知ってほしいという学生に参加をしてもらい、新たなヨコのつながりを持ってもらうことを目的とした。この企画もいろいろな学生に参加してもらいたく、両校舎で開催した。参加者は両校舎あわせて20名強を数え、ボランティアセンターに来たことがない学生も参加をしてくれた。特に白金校舎開催時には、それぞれの活動紹介に対して質問や意見が活発に飛び交い、時間を延長するほど熱い議論が交わされた。参加者の活動テーマも国際・環境・地域・子ども・障がいなど多岐にわたり、自分達が日頃活動している分野とは異なる分野の活動にも興味津々のようであった。アンケートでもまた開催してほしいという意見が多く、情報交換会の需要の高さをみせつけられた。情報交換会后、団体同士で連絡を取り、活動を共に行うなどの動きも出てきている。また学生の要望に応え、1月末に2回目の情報交換会を開催し、こちらも好評を得た。今後も定期的を開催しながら、学生の要望や考えに直接触れることのできる機会としていきたい。

第三に、外部団体をお招きして団体説明会を行った。外部団体と学生のつながりづくりのため、横浜校舎に(財)横浜開港150周年協会の方をお迎えした。2009年の横浜開港150周年を目前に、関連イベントも目白押しである。その中で、市民が自ら企画し出展などをする「市民創発メンバー」の募集を行った。学生は20名近く参加し、熱心に話に聞き入っていた。その後資料を取りに来る学生もおり、説明会を通じて横浜の地域活動に興味を持った学生がいたように思う。これから2009年にかけて様々な動きがあるが、「そういえば、説明会みたいなことをやっていた」という情報が学生の頭に入っていれば、次の

アクションにつながりやすいのではないかと考える。

また、あわせて「横浜のここが好き」などのアンケートを行うパネル展示もしていただき、博覧会に花をそえていただいた。

最後に取り上げるのは、今年度の「ボラ博」の中で一番大きなイベントとなった「Earth Campus Fes vol.1」である。ボランティアファンド 学生チャレンジ賞受賞企画とのコラボレーションで、学生に実行委員会形式で実施をお願いした。この企画は、学内でボランティアをテーマにした活動を展開している数多くの団体が一堂に会し、「ヨコのつながり」について考えるイベントの第一弾として実施したものである。「ヨコのつながり」や団体の情報を把握・共有することは、ボランティアセンターでも課題の一つとしてかねてからあげており、学生とボランティアセンターの思惑が一致したことも今回の実施につながった。

2週間にわたって、横浜校舎のいくつかの場所で、それぞれの団体の活動写真展を実施し、またボランティアに関する映画の上映会や活動報告会を断続的に開催した。写真展は、学生のアイデアによって、写真立てを学内の食堂やカフェのテーブル一つ一つに展示する形式となり、好評を博した。

博覧会最終日には、大型企画を実施した。コンセプトは、単にサークルが集まって話し合いをしたりするのではなく、イベントを一緒に創り、参加することをとおして「連携とは何か?」、「ネットワークの必要性」などを考えることであった。横浜校舎の授業終了後から、外のスペースではキャンドルナイトを、教室会場では音楽・ダンスなどの催し物を開催した。15団体ほどが集まり、100人近くの学生が参加したこのイベントは、ボランティア関連のイベントとしては学内初の試みであった。準備期間は短かったが、初めてのイベントを実施する大変さと充実感を学生は味わったようである。このイベントが一回で終わることなく、ボランティア系の団体のヨコのつながりをさらに作るために、学生とともにいろいろなしかけをつくっていききたい。

ボランティア博覧会をとおし、学生のヨコのつながりもさることながら、ボランティアセンターとして、これまでつながりのなかった数多くの学生とつながることができた。学生の目線に立って、学生が何を欲していて、どのようなことであれば一緒に活動をすることができるか、学生の興味や動きを捉えるなど、学ぶ点が多かった。日頃活動で忙しく、なかなか表の舞台に出てこない学生が輝く場所を提供することも、ボランティアセンターの重要な役割である。他の人に知ってもらい、認めてもらうこと、また叱咤激励される経験を通して、学生一人一人のスキルアップに、また団体の組織力の育成につなげていくことができるのではないかと。

ボラセンまつり・ボランティア博覧会、2つのイベントに共通して言えることだが、学内外とどのような連携を取りながら、どうやって学生を巻き込めるか、そして学生の自主的な動きをあぶりだすことができるかが、今後の課題点となるであろう。 (山下)